

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年8月9日

【四半期会計期間】 第75期第1四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

【会社名】 株式会社アマダ

【英訳名】 AMADA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO) 岡本満夫

【本店の所在の場所】 神奈川県伊勢原市石田200番地

【電話番号】 (0463)96-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員財務本部長 山下賀弘

【最寄りの連絡場所】 神奈川県伊勢原市石田200番地

【電話番号】 (0463)96-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員財務本部長 山下賀弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第74期 第1四半期 連結累計期間 | 第75期 第1四半期 連結累計期間 | 第74期 |
|------------------------------------|-------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日 | 自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日 | 自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日 |
| 売上高 | (百万円) | 34,733 | 37,080 | 185,539 |
| 経常利益又は経常損失() | (百万円) | 627 | 825 | 10,440 |
| 四半期(当期)純利益又は四半期純損失() | (百万円) | 116 | 1,168 | 4,643 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (百万円) | 3,732 | 4,050 | 1,043 |
| 純資産額 | (百万円) | 377,012 | 373,758 | 371,969 |
| 総資産額 | (百万円) | 468,716 | 473,152 | 469,836 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() | (円) | 0.30 | 3.06 | 12.16 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 | (%) | 80.0 | 78.6 | 78.8 |

(注) (1) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、第75期第1四半期連結累計期間においては、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。また、第74期第1四半期連結累計期間及び第74期においては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、以下の会社が新たに提出会社の関係会社となりました。

(金属加工機械事業)

| 名称 | 住所 | 資本金又は 出資金 | 主要な事業の 内容 | 議決権の 所有(被所有)割合 | | 関係内容 |
|-----------------------|----------------|--------------|--------------|-------------------|--------------|-----------------------------------|
| | | | | 所有割合 (%) | 被所有割合 (%) | |
| (連結子会社) 天田(中国)有限公司 | 中華人民共 和国上海市 | 3,000百万円 | 事業統括 | 100.0 | - | ・当社中国グ ループ事業の 統括 ・役員兼務2名 |

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、米国景気は緩やかな回復傾向で推移いたしましたが、欧州での財政危機問題や中国・インド等の新興国での景気拡大テンポの鈍化により全体として減速感が広がってきております。

一方、日本経済は、東日本大震災からの復興需要を背景として緩やかに持ち直しつつありますが、不安定な海外経済情勢や円高の長期化等により、依然として厳しい状況が続きました。

このような状況の下、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、受注高42,726百万円（前年同期比6.1%増）、売上高37,080百万円（同6.8%増）となりました。

事業別の売上高の状況につきましては、金属加工機械事業において、板金部門25,880百万円（前年同期比6.0%増）、プレス部門1,522百万円（同21.5%増）となり、全体では27,403百万円（同6.7%増）となりました。

また、金属工作機械事業では切削部門6,116百万円（前年同期比4.9%増）、工作機械部門3,126百万円（同10.9%増）となり、全体では売上高9,243百万円（同6.9%増）となりました。

主要な地域別売上高の内訳では、日本は前年同期比11.3%増の16,856百万円となりました。また、海外では、アジアは前年同期比9.6%減の6,823百万円と減収となったものの、北米5,576百万円（前年同期比26.9%増）、欧州7,201百万円（同4.4%増）と増収となり、海外全体では前年同期比3.3%増の20,224百万円となりました。

損益面におきましては、為替の円高の影響などによる売上総利益率の低下が響き、営業損失878百万円（前年同期は営業利益190百万円）、経常損失825百万円（前年同期は経常利益627百万円）、四半期純損失1,168百万円（前年同期は四半期純利益116百万円）といずれも損失計上のやむなきに至りました。

報告セグメント別の状況につきましては、金属加工機械事業では売上高は前年同期比6.7%増の27,417百万円、セグメント損失は1,030百万円（前年同期はセグメント損失411百万円）となりました。また、金属工作機械事業では売上高は前年同期比6.9%増の9,247百万円、セグメント利益は同60.9%減の201百万円となりました。

事業・部門別の受注及び販売の状況は下表のとおりであります。

(受注状況)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | | | | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) | | | |
|----------|---|------------|-------------|------------|---|------------|-------------|------------|
| | 受注高 | | 受注残高 | | 受注高 | | 受注残高 | |
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) |
| 金属加工機械事業 | 30,059 | 74.7 | 21,996 | 77.0 | 32,442 | 75.9 | 25,817 | 81.2 |
| 板金部門 | 28,987 | 72.0 | 21,166 | 74.1 | 30,679 | 71.8 | 24,048 | 75.7 |
| プレス部門 | 1,072 | 2.7 | 829 | 2.9 | 1,763 | 4.1 | 1,769 | 5.5 |
| 金属工作機械事業 | 9,785 | 24.3 | 6,559 | 23.0 | 9,850 | 23.1 | 5,959 | 18.8 |
| 切削部門 | 6,327 | 15.7 | 2,177 | 7.6 | 6,212 | 14.6 | 1,869 | 5.9 |
| 工作機械部門 | 3,457 | 8.6 | 4,382 | 15.4 | 3,637 | 8.5 | 4,090 | 12.9 |
| その他 | 410 | 1.0 | 4 | 0.0 | 433 | 1.0 | 3 | 0.0 |
| 合計 | 40,254 | 100.0 | 28,560 | 100.0 | 42,726 | 100.0 | 31,781 | 100.0 |

(販売状況)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) | |
|----------|---|------------|---|------------|
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) |
| 金属加工機械事業 | 25,675 | 73.9 | 27,403 | 73.9 |
| 板金部門 | 24,422 | 70.3 | 25,880 | 69.8 |
| プレス部門 | 1,253 | 3.6 | 1,522 | 4.1 |
| 金属工作機械事業 | 8,648 | 24.9 | 9,243 | 24.9 |
| 切削部門 | 5,828 | 16.8 | 6,116 | 16.5 |
| 工作機械部門 | 2,819 | 8.1 | 3,126 | 8.4 |
| その他 | 409 | 1.2 | 433 | 1.2 |
| 合計 | 34,733 | 100.0 | 37,080 | 100.0 |

また、地域別売上高の状況は下表のとおりであります。

海外売上高比率につきましては、為替レートが円高となった影響などにより、海外の増加率が日本を下回ったため、前年同四半期の56.4%から54.5%と低下いたしました。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) | |
|--------|---|------------|---|------------|
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) |
| 日本 | 15,151 | 43.6 | 16,856 | 45.5 |
| 海外 | 19,582 | 56.4 | 20,224 | 54.5 |
| 北米 | 4,396 | 12.7 | 5,576 | 15.0 |
| 欧州 | 6,899 | 19.9 | 7,201 | 19.4 |
| アジア | 7,549 | 21.7 | 6,823 | 18.4 |
| その他の地域 | 737 | 2.1 | 623 | 1.7 |
| 合計 | 34,733 | 100.0 | 37,080 | 100.0 |

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3,316百万円増加し、473,152百万円となりました。また、純資産は前連結会計年度末比1,789百万円増の373,758百万円となりました。自己資本比率は前連結会計年度末の78.8%から78.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,581百万円であります。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績に著しい増減はありません。

(7) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 550,000,000 |
| 計 | 550,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日) | 提出日現在 発行数(株) (平成24年8月9日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|--------------------------------|--|--------------|
| 普通株式 | 396,502,117 | 396,502,117 | 株式会社東京証券取引所 (市場第一部) 株式会社大阪証券取引所 (市場第一部) | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 396,502,117 | 396,502,117 | | |

(注) 「提出日現在発行数」には、平成24年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|--------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成24年4月1日～ 平成24年6月30日 | | 396,502 | | 54,768 | | 163,199 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直近の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------------|----------|------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 14,689,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 376,213,000 | 376,213 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 5,600,117 | | 一単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 396,502,117 | | |
| 総株主の議決権 | | 376,213 | |

(注)(イ)「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ3,000株(議決権の数3個)及び239株含まれております。

(ロ)「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式995株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|---------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社アマダ | 神奈川県伊勢原市石田200 番地 | 14,689,000 | | 14,689,000 | 3.70 |
| 計 | | 14,689,000 | | 14,689,000 | 3.70 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 57,835 | 59,992 |
| 受取手形及び売掛金 | 2 109,240 | 2 101,388 |
| リース投資資産 | 9,672 | 9,322 |
| 有価証券 | 29,016 | 29,379 |
| 商品及び製品 | 49,002 | 58,797 |
| 仕掛品 | 6,212 | 7,135 |
| 原材料及び貯蔵品 | 14,758 | 14,560 |
| その他 | 11,659 | 10,069 |
| 貸倒引当金 | 2,344 | 2,310 |
| 流動資産合計 | 285,054 | 288,335 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 49,792 | 49,768 |
| その他(純額) | 59,762 | 61,390 |
| 有形固定資産合計 | 109,555 | 111,159 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 3,481 | 3,456 |
| その他 | 2,911 | 3,142 |
| 無形固定資産合計 | 6,392 | 6,598 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 47,068 | 44,658 |
| その他 | 22,166 | 22,757 |
| 貸倒引当金 | 402 | 356 |
| 投資その他の資産合計 | 68,833 | 67,058 |
| 固定資産合計 | 184,781 | 184,816 |
| 資産合計 | 469,836 | 473,152 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 14,277 | 16,895 |
| 短期借入金 | 9,619 | 9,384 |
| 未払法人税等 | 1,463 | 1,326 |
| 賞与引当金 | 2,527 | 3,786 |
| 役員賞与引当金 | 118 | 68 |
| 割賦販売未実現利益 | 14,996 | 14,423 |
| その他 | 33,721 | 31,932 |
| 流動負債合計 | 76,724 | 77,817 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,230 | 2,043 |
| 退職給付引当金 | 10,594 | 10,191 |
| 役員退職慰労引当金 | 92 | 68 |
| 負ののれん | 264 | 198 |
| その他 | 8,959 | 9,074 |
| 固定負債合計 | 21,142 | 21,576 |
| 負債合計 | 97,866 | 99,394 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 54,768 | 54,768 |
| 資本剰余金 | 163,199 | 163,199 |
| 利益剰余金 | 203,980 | 200,520 |
| 自己株式 | 9,153 | 9,156 |
| 株主資本合計 | 412,794 | 409,331 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,613 | 6,615 |
| 繰延ヘッジ損益 | 415 | 149 |
| 土地再評価差額金 | 9,430 | 9,430 |
| 為替換算調整勘定 | 27,234 | 21,733 |
| その他の包括利益累計額合計 | 42,693 | 37,629 |
| 新株予約権 | 226 | 259 |
| 少数株主持分 | 1,641 | 1,797 |
| 純資産合計 | 371,969 | 373,758 |
| 負債純資産合計 | 469,836 | 473,152 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|---|---|---|
| 売上高 | 34,733 | 37,080 |
| 売上原価 | 19,915 | 22,212 |
| 売上総利益 | 14,818 | 14,868 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 販売手数料 | 1,181 | 1,226 |
| 荷造運搬費 | 1,666 | 1,448 |
| 給料及び手当 | 4,106 | 4,399 |
| その他 | 8,505 | 9,323 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 15,460 | 16,398 |
| 割賦販売等繰延利益繰戻 | 1,497 | 1,429 |
| 割賦販売等未実現利益繰延 | 664 | 778 |
| 営業利益又は営業損失() | 190 | 878 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 411 | 430 |
| 受取配当金 | 222 | 250 |
| その他 | 415 | 340 |
| 営業外収益合計 | 1,049 | 1,021 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 53 | 72 |
| 持分法による投資損失 | 38 | 32 |
| 為替差損 | 346 | 838 |
| その他 | 174 | 25 |
| 営業外費用合計 | 613 | 968 |
| 経常利益又は経常損失() | 627 | 825 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 4 |
| ゴルフ会員権売却益 | 8 | - |
| 特別利益合計 | 11 | 4 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 1 | 1 |
| 固定資産除却損 | 1 | 1 |
| 投資有価証券評価損 | - | 6 |
| ゴルフ会員権売却損 | 1 | - |
| 特別損失合計 | 4 | 9 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失() | 634 | 829 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 671 | 594 |
| 法人税等調整額 | 210 | 291 |
| 法人税等合計 | 460 | 302 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失() | 173 | 1,132 |
| 少数株主利益 | 57 | 36 |
| 四半期純利益又は四半期純損失() | 116 | 1,168 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失() | 173 | 1,132 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 60 | 1,004 |
| 繰延ヘッジ損益 | 192 | 564 |
| 為替換算調整勘定 | 3,397 | 5,594 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 29 | 27 |
| その他の包括利益合計 | 3,558 | 5,183 |
| 四半期包括利益 | 3,732 | 4,050 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 3,639 | 3,895 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 92 | 155 |

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年6月30日) | |
|---|--|
| (1) 連結の範囲の重要な変更 | 当第1四半期連結会計期間より、新規に設立した天田(中国)有限公司を連結子会社を含めております。 |
| (2) 持分法適用の範囲の重要な変更 | 持分法適用の非連結子会社 当第1四半期連結会計期間より、新規に設立したアマダ・アドバンスト・テクノロジー社を持分法適用の非連結子会社を含めております。 |

【会計方針の変更等】

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年6月30日) | |
|--|--|
| (会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) | |
| 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 | |
| なお、これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。 | |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

当企業集団の商品を購入した顧客に対する債務の保証は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) | |
|--------------|-------------------------|----------|------------------------------|----------|
| 銀行からの借入 | (74社) | 885百万円 | (74社) | 980百万円 |
| リース会社へのリース債務 | (34社) | 653百万円 | (38社) | 827百万円 |
| 計 | | 1,539百万円 | | 1,808百万円 |

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形が当第1四半期連結会計期間末残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|------|-------------------------|------------------------------|
| 受取手形 | 822百万円 | 1,157百万円 |

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

当社グループは、通常の営業形態として第4四半期連結会計期間の売上高及び営業費用が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-----------|---|---|
| 減価償却費 | 1,690百万円 | 1,848百万円 |
| のれんの償却額 | 133百万円 | 132百万円 |
| 負ののれんの償却額 | 66百万円 | 66百万円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成23年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,909 | 5 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月30日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成24年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 2,990 | 6 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月29日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報 (単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------|------------|--------|-------------|--------|-----|-------------------------------|
| | 金属 加工機械 | 金属 工作機械 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 25,675 | 8,648 | 34,323 | 409 | 34,733 | | 34,733 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 9 | 3 | 12 | | 12 | 12 | |
| 計 | 25,685 | 8,651 | 34,336 | 409 | 34,746 | 12 | 34,733 |
| セグメント利益又は損失() | 411 | 515 | 104 | 86 | 190 | | 190 |

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、ゴルフ場の経営及びカーリース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報 (単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|------------|------------|--------|-------------|--------|-----|-------------------------------|
| | 金属 加工機械 | 金属 工作機械 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 27,403 | 9,243 | 36,647 | 433 | 37,080 | | 37,080 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 14 | 3 | 18 | | 18 | 18 | |
| 計 | 27,417 | 9,247 | 36,665 | 433 | 37,098 | 18 | 37,080 |
| セグメント利益又は損失() | 1,030 | 201 | 829 | 49 | 878 | | 878 |

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業、ゴルフ場の経営及びカーリース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「会計方針の変更等(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、これによる当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの損益に与える影響額は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|---|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 0.30円 | |
| 1株当たり四半期純損失金額 | | 3.06円 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益(百万円) | 116 | |
| 四半期純損失(百万円) | | 1,168 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益(百万円) | 116 | |
| 普通株式に係る四半期純損失(百万円) | | 1,168 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 381,846 | 381,806 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | | |

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【その他】

当社は、平成22年5月31日付にて、三菱電機株式会社（以下、三菱電機という。）より、当社を被告としてレーザー加工装置等に関し同社保有特許権の侵害に関する損害賠償請求及びレーザー加工機（F0 シリーズ、F0-NT シリーズ、F0-M NT シリーズ、LC-F1 NT シリーズ）の製造及び販売の差止請求等に係る訴訟を東京地方裁判所に提起され、現在、係争中であります。

当社は、本裁判において、特許侵害に当たらない旨を主張しておりますが、この主張を裏付けるため、特許庁に対し、侵害されていると三菱電機が主張する特許のうち2件の特許について無効審判を請求しております。なお、うち1件の特許につきましては、特許庁にて平成23年4月に無効であるとの審決がなされましたが、三菱電機が当該特許の訂正審判請求した結果、知的財産高等裁判所において実質的な審理をすることなく審決が取り消され、その後の特許庁では当社の請求を認めない旨の審決がなされたために、現在知的財産高等裁判所において係争中であります。

当社といたしましては、引き続き裁判において正当性を主張してまいり所存であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 7日

株式会社アマダ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

| | | |
|--------------------|-------|-----------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 青 木 良 夫 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 石 井 哲 也 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 東 海 林 雅 人 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アマダの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アマダ及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。